VEQTA

ONLINE PRESS PLATFORM

記者にも、放送局にも。
1本の映像から、それぞれの形で。

記者発表会の映像を、報道機関には守られた視聴画面で、
テレビ局には放送に使える素材のまま、同時にお届けします。
そして記者向けの配信には、**質疑応答が必ず付きます。**

ご提案
映像伝送・記者向け配信・質疑応答

発行
2026年9月27日

提供
アストバーン株式会社

1枚でわかる Veqta

届ける相手

記者と、テレビ局

会場からいただくのは**映像1本**。クラウドで受け、届け先ごとに違う形で送り出します。 記者にはブラウザで見られる**守られた視聴画面**を、テレビ局には**放送品質のまま**局の受信機へ。

いちばんの特長

会場に来なくても、質問できる

記者は視聴画面から質問を送れます。主催者が並べ替え・整え、**MCのタブレット**に読み原稿として届きます。 **記者向け配信に標準で含まれます。**

価格の考え方

システム利用料と、機材は別

お手持ちの機材と技術チームで運用できる方は、システム利用料だけ。 機材と人が必要な方には、パッケージを別途ご用意しています。

この資料の構成

P3	いまのやり方の課題
P4	仕組み ― 1回の送信から出し分ける
P5–P10	**記者向け**　守る／質疑応答／MCの手元／カンペ
P11–P12	**テレビ局向け**　受け入れ／前日テスト／複数局
P13–P14	**ご用意いただくもの／技術仕様書（SRT）**
P15–P16	当日の流れ／基盤とセキュリティ
P17	料金
P18–P20	ご利用の条件／導入の流れ／お問い合わせ

料金（税別・1案件・本番1日分）

A 記者向け配信　～100社　質疑応答こみ	30万円
A 記者向け配信　～300社	50万円
B テレビ局配信　3局まで	＋40万円
B テレビ局配信　5局まで	＋60万円
配信機材・オペレーターパッケージ（別売）	30万円

プランの価格はシステム利用料だけです。会場の送信機・局の受信機・配信オペレーターは含みません。

いまのやり方には、3つの穴があります

01

URLが共有されたら、追えない

一般の配信サービスは、**リンクを知っていれば誰でも見られます。**転送されても、こちらからは分かりません。 解禁前の情報を扱う場で、これは前提から成り立ちません。

02

放送素材としては使えない

ブラウザ向けに圧縮された映像は、**放送には耐えません。** 再生ボタンや「バッファ中」の表示が映り込む危険もあり、放送責任者が許可を出せません。

03

相手ごとに出し分けられない

記者にも局にも、同じ画質・同じ形で配られる。**必要なものが、必要な相手に届いていません。**

そしてもうひとつ、見落とされてきた穴があります。

オンラインで見ている記者は、質問ができませんでした。
記者が会場に足を運ぶ一番の理由は、質問するためです。質問できなければ、オンラインは資料配布と同じ扱いになり、 媒体は担当を出しません。
つまりこれまでのオンライン配信は、**記者から質問の機会を奪ったうえで「ご参加ください」と言っていた**ことになります。

1回の送信から、相手ごとに出し分ける



現場でやることは変わりません

会場にお願いするのは、**本線の映像を1本いただくこと**だけです。 出し分けはすべてこちら側で行います。局が増えても、**1チャンネルを全局に共通で走らせる**ので、 会場側の作業は増えません。

なぜ2系統に分けるのか

記者はブラウザで見ます。回線も端末もさまざまなので、**軽く、確実に届く形**が要ります。テレビ局は放送に使います。**透かしのないクリーンな映像**でなければ意味がありません。 同じ映像でも、求められるものが正反対です。

誰が見たかが、記録に残る

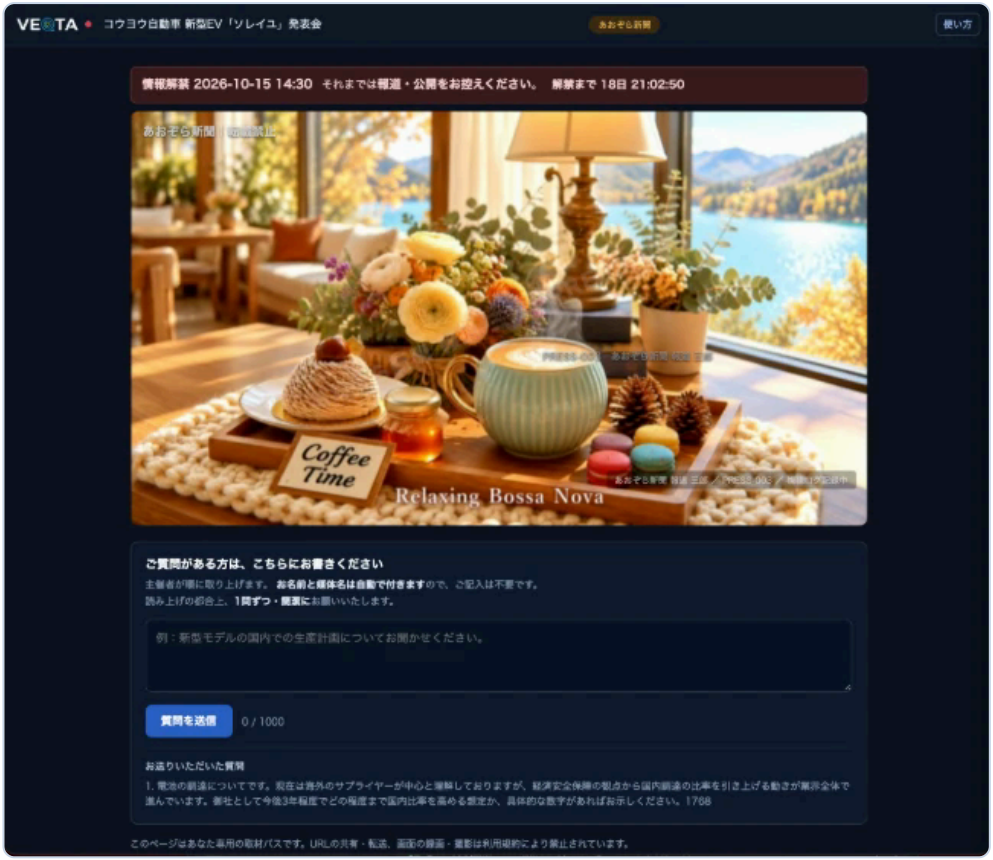
お一人ずつに、専用のURL

- **メール認証＋視聴PIN**でご本人を確認します
- 映像には**媒体名と担当者名の透かし**が入ります（4箇所）
- **同じパスで複数の端末から同時には視聴できません**
- 誰がいつ見たかは、終了後に**視聴ログ**としてご報告します
- **情報解禁の時刻**を画面に出し、それまでの報道・公開をお控えいただくよう明示します

「とりあえず全員に送る」ではなく、
「どなたに、どこまでお見せしたか」が残る配信です。

透かしの置き方

不透明度だけに頼りません。**左上**＝媒体名＋転載禁止（影付きで明るい映像でも読める）、 **中央**＝大きく傾けて配置（部分キャプチャでも必ず一部が入る）、 **遊走**＝数秒ごとに周縁を移動（話者の顔にかぶらない）、**下帯**＝氏名・パスID・記録中。



記者の視聴画面。透かしと情報解禁の表示が入る

記者が会場に行く一番の理由は、質問するためです

その理由を、オンラインに持ってきました。そして**オプションにはしませんでした。**記者向け配信には、はじめから付いています。

1

記者が、視聴画面から送る

映像を見ながら、同じ画面で書けます。**お名前と媒体名は取材パスから自動で入ります**ので、ご記入は不要です。1問1000字まで。

2

主催者が、並べて整える

届いた順に貯まります。読ませたい順に並べ替え、長い質問は**読み上げ用に短く整えて**MCへ送ります。

3

MCが、タブレットで読む

社名・担当者名・質問文だけが大きく出ます。**進めるのはMC自身。**「次の質問へ」を押したときだけ画面が変わります。

できること

- 会場に来ていない記者が、視聴画面から質問を出せる
- **誰が何を聞いたかが、社名つきで文字に残る**
- 主催者が、読ませる順番を決められる
- 長い質問を、読み上げ用に整えられる（**記者が書いた原文も残ります**）
- **配信が始まる前から**質問を集められる
- MCの準備は**URLを1本お渡しするだけ。**ログインは要りません

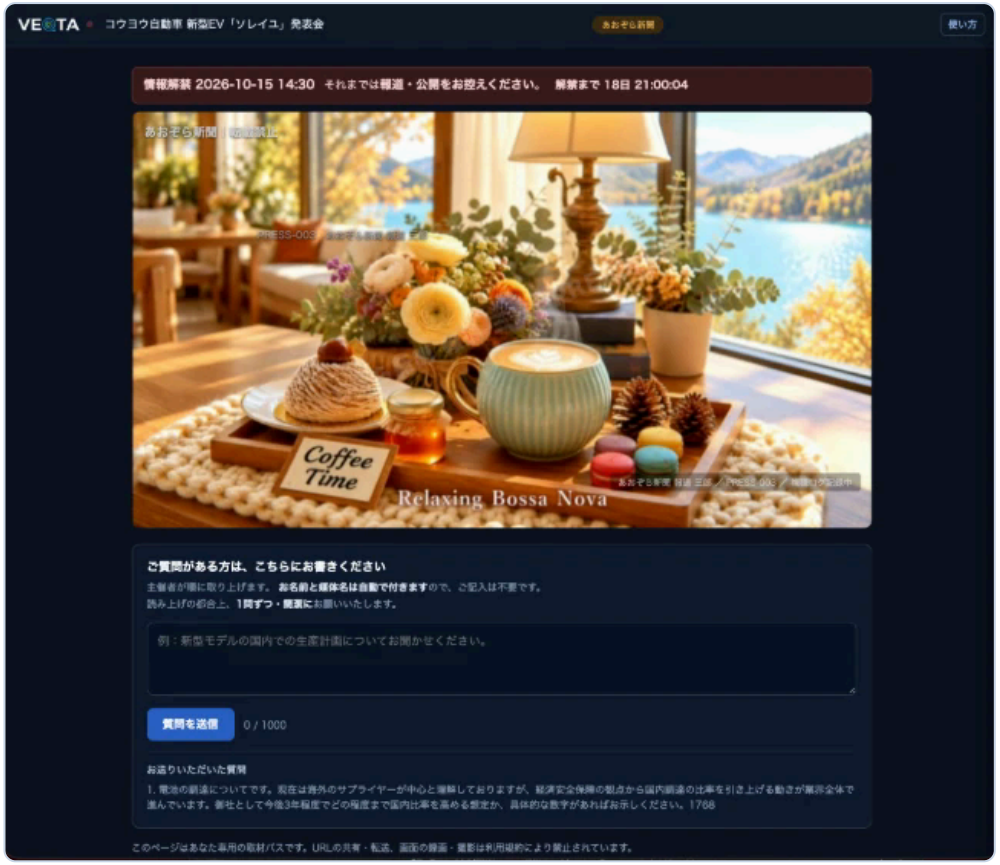
あえて作らなかったこと

- **会場の挙手とは自動で統合しません。**現場ごとに作法が違うため、両方をご覧になりながらMCが決める運用にしています
- **個人単位で質問を止められません。**「この記者だけ」という運用はその場で揉めるため、機能として持ちません
- **AIによる要約はしません。**整えるのは人です

記者の画面 — 質問欄は、映像の下に出ます



受付前。質問欄はまだありません



受付開始後。映像の下に入力欄が出ます

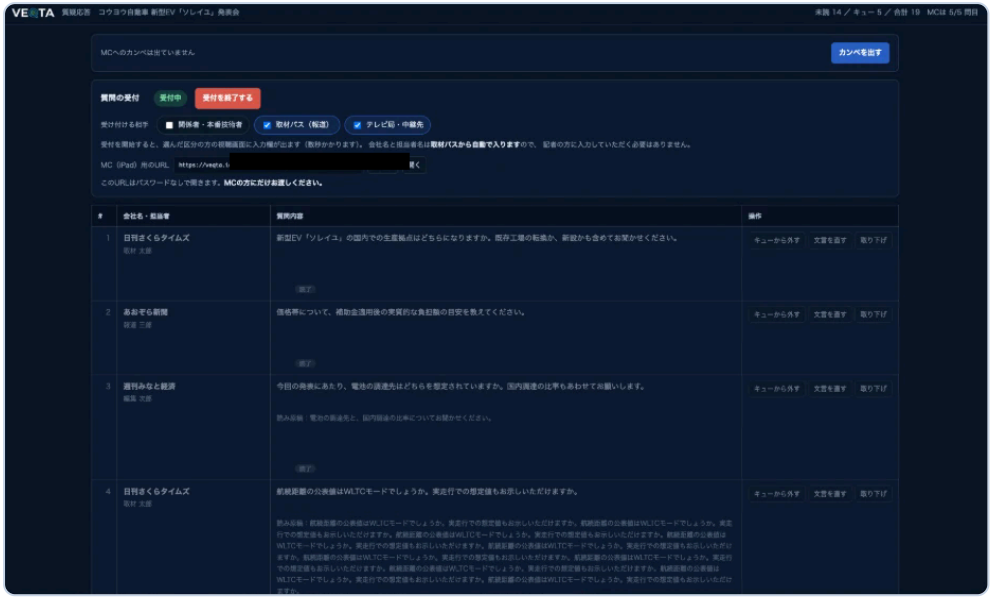
誰に開くかを選べます

受付を開始するとき、対象の区分を選びます。 **関係者・本番技術者／取材パス（報道）／テレビ局・中継先。**チェックを外した区分には、質問欄そのものが出ません。

なぜ社名を書かせないのか

手入力にすると、媒体名の表記が揺れます。空欄で送られることもあります。 そして**MCがそのまま読み上げます。**媒体名の読み違いは、会見における事故です。だから**書かせない**ことにしました。

主催者の画面 — エクセルのように貯まる



質疑応答 集約画面（配信画面とは別ウィンドウ）

4つの操作だけ

MCに送る	MCの**スタンバイキューに積む**。MCの画面は切り替わらない
文言を直す	読み上げ用の原稿を作る。**原文は消えずに残る**
読了	読み終わった印。グレーに落ちる
取り下げ	一覧から隠す。**削除ではない**

長い質問を、読める原稿に

記者が書いた原文（185字）

二点うかがいます。一点目は生産体制についてで、今回の新型を生産する工場では既存モデルとの混流生産を行うとのことですが、需要が想定を上回った場合に増産の余力はどの程度あるのでしょうか。二点目は雇用への影響です。…

↓　読み上げ用に整える

読み原稿（30字）

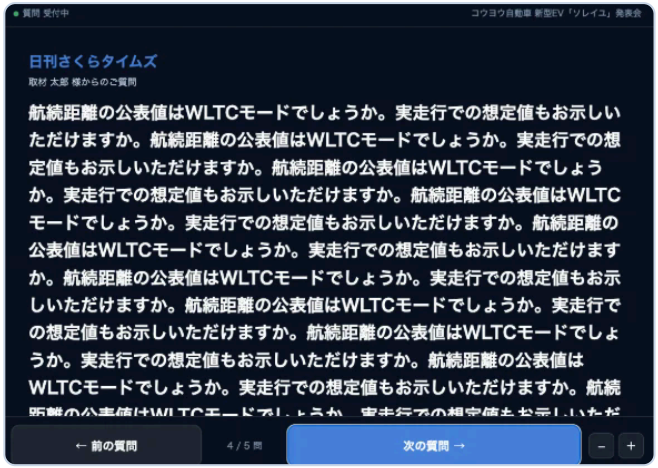
増産の余力と、協力会社への支援策について、お聞かせください。

原文と読み原稿は別々に保持します。**「誰が、何を聞いたか」は整えたあとも正確に残ります。**

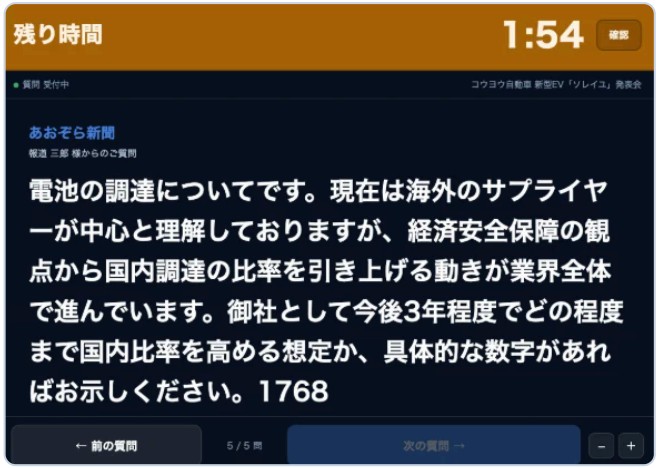
MCの手元 — 出るものを、徹底的に絞りました



読み原稿。社名・担当者名・質問文だけ



長い質問は自動で縮小。文字数で5段階



カンペ。読み原稿の上に帯で出る

社名は、常に見えています

読み上げる前に必ず名乗るので、**社名と担当者名はスクロールしても上に貼り付いたまま**です。

立ったまま、離れて読む

文字数に応じて**自動で5段階に縮小**します。拡大するより1画面に収まるほうが読みやすいという判断です。手元の ＋／− でMCが調整することもできます。

進めるのは、MC自身

主催者が「MCに送る」を押しても**画面は切り替わりません。**キューに積まれるだけです。 読み上げの途中で画面が変わると、会場の全員の前で言葉が途切れるからです。

カンペ — 進行ディレクターから、MCの手元へ

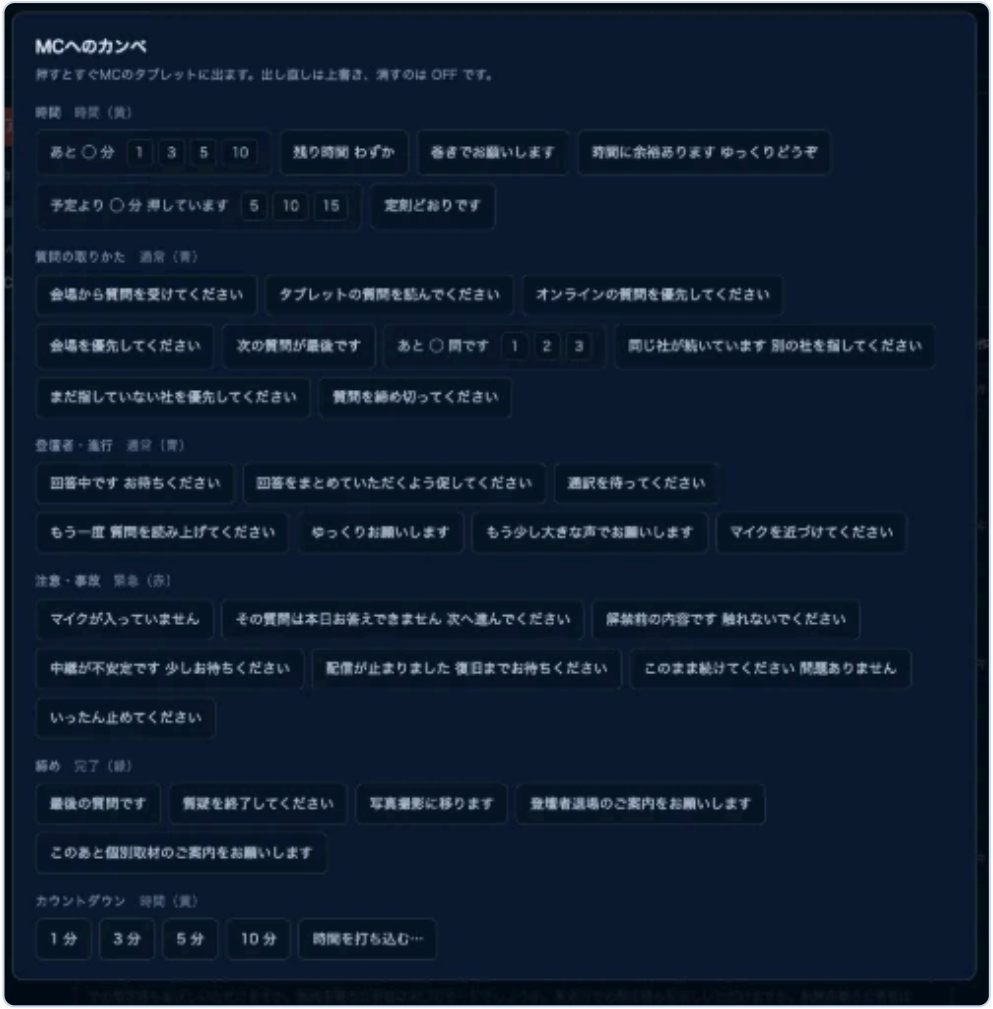
カンペ係を、壇上の袖に立たせない

これまでは人がやっていました。スケッチブックを持った方が壇上の袖に立ち、MCに見せる。 その方は本番中ずっと拘束され、文字は手書きで、暗いと読めません。 そして**その位置は、会場のお客様からも見えています。**

Veqtaでは、**進行ディレクターが手元で押すだけ**です。34の文言を5グループに分類しています。

グループ	例
時間	あと◯分／巻きでお願いします／予定より◯分 押しています
質問の取りかた	会場から受けてください／オンラインを優先／次が最後です
登壇者・進行	回答中です／通訳を待ってください／マイクを近づけて
注意・事故	マイクが入っていません／解禁前の内容です／配信が止まりました
締め	最後の質問です／質疑を終了してください／写真撮影に移ります

カウントダウンも出せます。タブレット側で秒を刻むので、**通信が一瞬途切れても数字は止まりません。** 自由入力は80字まで、色は4段階から選べます。



主催者の画面。押せばすぐMCのタブレットに出る

出している文言は主催者の画面でも見えていて、OFFもワンタッチ。
右端に「MC未確認／確認済」が出るので、**MCが見ていないのか、見たうえで動いていないのか**が分かります。

テレビ局には、放送に使える形で。1チャンネルを全局へ

記者向けの映像は、ブラウザで見るための映像です。テレビ局の設備が受けるのは **SDIの信号**です。
Veqtaは、会場の本線を**透かしのないクリーンな映像**として別の経路で送り、各局に置いた受信機から SDI で出します。



局への届け方	各局に受信機を置き、SDIで局の設備へ。SRT受信設備をお持ちの局には**直送も可**
局側の作業	受信機に電源とLANを挿す → 前日に局ポータルで受信確認 → **当日は繋いで待つだけ**
局数	3局まで基本。追加は1局ごと（事前申込制）
局返し	局のカメラ映像をその局へ返す（オプション・同時3局まで）

1チャンネルを全局に共通で

局ごとに違う映像を作るのではなく、**1チャンネルを全局に共通で走らせます。** だから局が増えても、**会場側の作業は増えません。**遅延は1秒前後。

ブラウザの映像をキャプチャする方法は使えません。 再生ボタンや「バッファ中」の表示が映り込む危険があり、放送責任者が許可を出せないためです。

前日に、受信を確かめられます

当日ぶっつけにはしません。

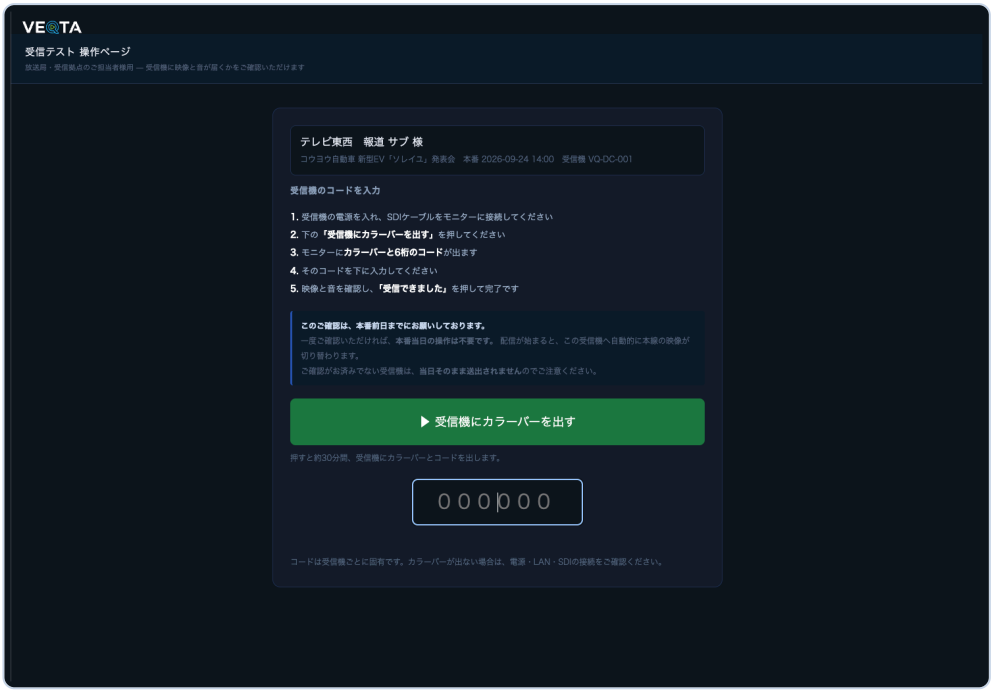
前日テストの流れ

1. 受信機のモニターに出る　**コードで局ポータルにログイン**
2. **テスト信号（カラーバー＋1kHz）**　を自分で出していただきます
3. 30分で自動停止。　**何度でも無料**　です
4. 「　**受信できました**　」を押すと記録されます

> **この確認が済んでいない受信機には、当日そのまま送出しません。**
> 「映らない」を本番で起こさないための決まりです。

当日は、繋いで待つだけ

本番の時刻に自動で本線へ切り替わり、終われば自動で止まります。 局のご担当者に当日の操作をお願いすることはありません。



局ポータル。前日にテスト信号を自分で出せる

放送局回線は**Bプランに3局**（5局プランは5局）含まれます。追加は**10万円／局**（事前申込制）。 受信機は在庫の範囲でご用意します。

会場からは、映像1本と回線

Veqta は「システム」です。会場の送信機と配信オペレーターは、お手持ちの機材と技術チームで運用いただけます。 機材と人が必要な方には、パッケージを別途ご用意しています（P17）。

会場（送る側）

映像・音声	カメラ／スイッチャーの本線を **SDI または HDMI で1本。** 音声は会場のミックス（登壇者マイク＋司会）を映像に乗せた状態で
エンコーダー	**SRTで送信できる機器またはソフトウェア**（次ページの技術仕様）。RTMPでも受けられますが、**画質と安定性の面でSRTを推奨**します
技術者	上記のエンコーダーを設定・操作できる方
回線	**有線のインターネット回線。上り20Mbps以上（実測）。** 会場の共用Wi-Fiは不可。固定IP・専用線・ポート開放は不要
PC	配信管理画面を開くパソコン1台（Chrome／Edge／Safari の最新版）。 プレビューを見るため下り20Mbps以上
オペレーター	配信スタート／ストップと、質問の集約画面を見る方。兼任可

記者・MC・主催者（受ける側）

記者	**ブラウザだけ。**パソコンでもスマートフォンでも。 下り5Mbps以上（推奨10Mbps）。アプリのインストールは不要
MC	**タブレット1台**と、会場のWi-FiまたはモバイルSIM回線。 **URLを1本渡すだけ、ログイン不要**
主催者・PR会社	案件管理画面（取材パスの発行・PIN・視聴ログ）。ブラウザだけ。CSVで媒体リストを一括登録

「契約の最大速度」ではなく「その場で出る速度」で。
会場の回線は来場者のスマートフォンや他の配信業者と共用になることがあります。 **本番と同じ時間帯・同じ場所で測っていただく**のが確実です。 不安な場合は予備回線（LTE／5G）の追加や、現地技術（送信テスト）をご相談ください。

技術ご担当者には、**次の1ページをそのままお渡しください。**

会場からの送信（SRT推奨）

案件ごとの**接続先・ストリームID**は、案件管理画面の「回線」欄に表示されます。この値を送信機に入れてください。

送信方式

方式	**SRT（推奨）**。欠損したパケットを再送で復元し、遅延を一定に保つ放送向けの伝送方式。RTMP も可
接続モード	**Caller**（会場側から弊社サーバーへ接続しに行く）。**会場側のポート開放は不要**
接続先	案件ごとに発行（例：`srt://ingest.veqta.io:5000`）。ストリームIDも案件ごと
レイテンシー	**120ms〜500ms**（回線が細い会場は 1,000ms）。値は案件管理画面の指定に合わせる
暗号化	任意。**AES-128** に対応（パスフレーズは案件ごとに発行）
通信	**UDP・外向き**（会場→弊社）。社内ポリシーで外向きUDPを止めている場合は、指定ポート1点の許可を

回線

上り	**送信ビットレートの2倍以上。有線必須**
予備回線	LTE／5G のボンディング機器、または別系統の回線。**局配信・生中継を伴う案件では推奨**

映像・音声

項目	標準	小さい版（回線が細い会場）
解像度	**1920×1080**	**1280×720**
フレーム	29.97p／59.94p（1080i も可）	29.97p
ビットレート	**8〜12Mbps・CBR**	**4〜6Mbps・CBR**
必要な上り	20Mbps 以上	12Mbps 以上
コーデック	**H.264（High Profile）推奨**。H.265 も可	
キーフレーム	1〜2秒間隔（GOP 30〜60）	
音声	**AAC-LC、48kHz、ステレオ、128〜256kbps。** 会場のミックスを乗せる。ラインレベルで −20dBFS 目安	

> **小さい版は、記者向け配信のみの案件でお使いください。** テレビ局配信（B）を伴う場合は、放送品質を確保するため**標準（8Mbps以上）を推奨**します。

前日・当日のテスト

前日までに一度、上記設定で**送信テスト**をお願いします（弊社が遠隔で受信を確認）。 当日は**開始2時間前から送信**し、配信管理画面で「受信中」と受信Mbpsが出ていることをご確認ください。

前日と当日の流れ

前日	**送信テスト**　会場の設定で一度送信していただき、弊社が遠隔で受信を確認
	局の受信確認　局ポータルでテスト信号を出し、「受信できました」を押していただく これが済んでいない受信機は当日送出しません
	リハーサル配信　関係者のみが視聴できる状態で通しの確認（追加料金なし）
	MC用URLのお渡し　ログインは不要です
当日 **開始前**	**開始2時間前から送信**　配信管理画面で「受信中」と受信Mbpsを確認
	記者の入室　メール認証＋視聴PIN。待機画面をご覧いただきます
	質問の受付開始配信が始まる前から質問を集められます
当日 **本番**	**配信スタート**　記者と放送局に同時に出ます。局側の操作は不要です
	質疑応答　主催者が質問を並べ、MCのタブレットへ。カンペで進行を支援
	配信中の監視　回線・機材の状態を弊社が遠隔で監視します
終了後	**アーカイブ**　7日間（延長は1週間あたり3万円）
	ご報告書　視聴ログ（どなたが、いつ、どれだけご覧になったか）
	受信機の集荷　配信の翌営業日（パッケージをご利用の場合）

サービス提供開始の条件　次の2つが揃ってはじめて、配信をお出しします。 ① **前日の、局側での受信確認**（Bをご利用の場合） ② **当日の、送信テストの合格**（会場からの映像が届いていること）

放送業務用のソフトウェアが、中心にあります

映像伝送のエンジン

NTTテクノクロス株式会社のメディアストリームルーターを採用しています。 放送局の業務で使われている製品です。

運用・サポートはアストバーンが一貫して行います。お客様の窓口は弊社ひとつです。

安心のための設計

- **受信機は遠隔で管理します。**局へお送りしたあとも、設定・監視・再起動はこちらで行います
- **配信中は遠隔で監視します。**回線や機材の異常は、画面と警告でただちに分かります
- **配信が切断された場合**は、終了後30分以内にアーカイブを代替としてご提供します

情報の取り扱い

本人確認	メール認証＋視聴PIN。お一人ずつに専用URL
同時視聴	同じパスで複数端末から同時には視聴できません
透かし	媒体名・担当者名・パスIDを映像内に4箇所
視聴ログ	誰がいつ視聴したかを記録し、終了後にご報告
情報解禁	解禁時刻を画面に明示。それまでの報道・公開をお控えいただく旨を表示
パスの失効	主催者の画面から、いつでも個別に失効できます
映像の保管	公開期限を過ぎた映像は自動的に削除します

質疑応答で記者が書いた質問は、**整えたあとも原文が残ります。** 「誰が、何を聞いたか」を正確に記録として残すためです。

システム利用料と、配信機材は別です

プランの価格はシステム利用料だけです。会場の送信機・局の受信機・配信オペレーターは含みません。 **お手持ちの機材と技術チームで運用できる方は、システム利用料のみ。**必要な方は右のパッケージを足してください。 表示はすべて**税別**、1案件・本番1日分です。

システム利用料

プラン	含まれるもの	価格
A 記者向け配信 〜100社	取材パス・本人確認＋視聴PIN・透かし・情報解禁表示・**質疑応答とMCカンペ**・視聴ログ報告・アーカイブ7日・遠隔監視・3時間	**30**万円
A 記者向け配信 〜300社	取材パス・本人確認＋視聴PIN・透かし・情報解禁表示・**質疑応答とMCカンペ**・視聴ログ報告・アーカイブ7日・遠隔監視・3時間。**記者300社まで**	**50**万円
B テレビ局配信 3局まで	クリーン本線の局向け送出・局ポータル（前日テスト）・受信機の遠隔設定・監視。**Aと組み合わせて**	**＋40**万円
B テレビ局配信 5局まで	クリーン本線の局向け送出・局ポータル（前日テスト）・受信機の遠隔設定・監視。**5局まで**	**＋60**万円

オプション（システム）

放送局 追加（1局・事前申込） 受信機の貸出・発送・設定を含みます	10万円 ／ 局
局返し（局カメラ→局・要B・同時3局まで）	30万円 ／ 局
配信延長	5万円 ／ 時間
アーカイブ延長（7日を超える分）	3万円 ／ 週

配信機材・オペレーターパッケージ（別売）

標準パッケージ	送信機1台（SRT）＋受信機3台まで（局へ発送・設定済み）＋配信オペレーター＋機材の運搬費用・諸経費	**30**万円
予備回線	LTE／5Gボンディング機器・1日	都度お見積り
現地技術	設営・送信テスト・カメラ・スイッチャー・回線構築	都度お見積り

組み合わせの例

記者100社・**自前の機材と技術チーム**	**30万円**
記者100社＋機材・オペ パッケージ	**60万円**
記者100社＋局3局＋パッケージ	**100万円**
記者300社＋局5局＋パッケージ	**140万円**

機材は本番の前後を含む期間の貸出。**リハーサル配信・配信管理画面のプレビュー・配信前の質問受付・前日の局テストは、 いずれも追加料金なし。**オプションは割引の対象外（定価）です。

ご利用の条件

受付・運用

同日の案件数	同日（連続する日を含む）**2案件まで**
事前申込	**局配信・局返しは事前申込制。**当日の飛び込みはお受けできません
提供開始の条件	① 前日の局側での受信確認　② 当日の送信テストの合格 （会場からの映像が届いていること）
機材の返却	受信機は配信の**翌営業日に集荷。**返却遅延は1日1万円、紛失・破損は実費 （機材パッケージをご利用の場合）
追加料金なし	**リハーサル配信・配信管理画面のプレビュー・配信前の質問受付・前日の局テスト**

お支払い

案件費	**月末締め・翌月末払い**（お振込）
実費	交通費・宿泊費は実費でのご請求となります
再見積	会場の回線状況により構成を変更する場合は、**事前にご相談のうえ再見積**いたします

責任の範囲

- 責任の上限は、**当該案件について弊社が受領した額**とします
- 次に起因する障害は免責とさせていただきます
  — 会場の回線／放送局側のネットワーク／視聴者の端末／**お客様手配の機材**
- 配信が切断された場合は、**終了後30分以内にアーカイブ**を代替としてご提供します
- 局への伝送は**素材の提供**です。放送に使用されるかどうかは局のご判断によります

情報の取り扱い

- 取材パスは**お一人ずつ**に発行し、**同時視聴は1端末まで**
- 映像には**媒体名・担当者名・パスIDの透かし**が入ります
- **視聴ログ**を記録し、終了後にご報告します
- パスは主催者の画面から**いつでも個別に失効**できます
- 公開期限を過ぎた映像は**自動的に削除**します

正式な金額はお見積りにてご提示します。 記載の価格は標準のものです。会場の回線状況・拠点数・ご用意いただける機材により変わります。

導入までの流れ

1. **ご相談・構成のご提案**
   会場・想定記者数・出す局の数・お手持ちの機材をお聞かせください。ご希望があればご訪問してご説明いたします
2. **お見積り**
   システム利用料と、必要に応じて機材・オペレーターパッケージを分けてご提示します
3. **デモのご依頼**
   実際の画面をご覧いただけます。記者の視聴画面、質疑応答、MCのタブレットまで
4. **ご発注・技術のすり合わせ**
   技術ご担当者に「技術仕様書」（P14）をお渡しください。局のご担当者には前日テストのご案内をお送りします
5. **前日テスト → 本番**
   送信テストと局の受信確認が揃ってから、配信をお出しします

よくあるご質問

機材は必ず借りる必要がありますか	**いいえ。**SRTで送信できる機器またはソフトウェアと技術者をお持ちであれば、システム利用料だけでご利用いただけます
会場のWi-Fiでも使えますか	**有線をお願いしています。**共用Wi-Fiは来場者と帯域を取り合うため、本番では推奨できません
記者にアプリは必要ですか	**不要です。**ブラウザだけでご覧いただけます
MCはログインが必要ですか	**不要です。**URLを1本お渡しするだけです

関連資料

ご利用マニュアル	当日の操作手順、放送局向けの受け入れ方法
技術仕様書	本書 P14。技術ご担当者にそのままお渡しください
WEBヘルプ	veqta.io／ログイン済みの方。中継側・記者側それぞれの手順

ご相談・お問い合わせ

実際の案件に合わせた構成のご提案、デモのご依頼など、お気軽にご連絡ください。 ご希望があれば、ご訪問してご説明いたします。

sld@astburn.com

アストバーン株式会社　営業部

東京都品川区　／　veqta.io

映像伝送エンジン

メディアストリームルーター（NTTテクノクロス株式会社）

サービス提供・運用

アストバーン株式会社

VEQTA

記者にも、放送局にも。
1本の映像から、それぞれの形で。

会場に来なかった記者を、
「見ているだけの人」で終わらせない。